

八尾市立
歴史民俗資料館
(八尾市)

みゆ〜
ザ・見遊じあむ

71



田園風景の中に映える白壁蔵風の資料館

ミュージアムメモ

▶所在地/八尾市千塚3丁目180番1号▶交通/近鉄大阪線「河内山本」駅から信貴線に乗り換え。「服部川」駅下車徒歩約8分▶開館時間/午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)▶休館日/毎週火曜日(祝日の場合は開館)、年末年始、その他展示品入れ替えによる臨時休館▶入場料/一般200円(特別展は300円)、高校・大学生100円(特別展は150円)、小中学生・65歳以上は無料▶連絡先/電話072-941-3601



一駅足を伸ばせば、信貴山へ登るケーブルカーが

大和川流域と
河内木綿の歴史を記す

八尾市は市域の約3分の2が遺跡範囲に指定され、全国的にも例をみないほど遺跡が密集した地域です。この歴史民俗資料館では「掘り起こされた八尾の歴史」「写真と資料でみる八尾の風景」「大和川付け替えと河内木綿」の3つのテーマで常設展示がされています。八尾市のまちと産業の歴史を学ぶことができます。古代には広大な湖「河内湖」がこの地域に広がり、大和川流域の肥沃なデルタ地帯として弥生時代から耕作が行われていました。奈良時代は難波と大和の国を結ぶ中継地として栄えました。江戸中期(宝永元年・1704年)には、大和川

の付け替え工事が行われました。その際、旧川床の砂地が木綿栽培に適し、大坂という消費地も近かったために「河内木綿」で有名な紡績業も盛んになりました。資料館では、綿織りや糸つむぎなど「河内木綿体験」もできます(要予約)。資料館の最寄り駅から、一

「コクリコ坂から」



1960年代の学園自治と
家族の絆をアニメに

1960年代の学園自治と家族の絆をアニメに。監督は宮崎吾朗の第2作目。原作は1980年に発表された同名の漫画「コクリコ坂から」(高橋千鶴/画・佐山哲郎/作)。2011年には映画に合わせて文庫版が発売されています。

タイトルの「コクリコ」はフランス語で「ひなげし」のこと。アグネス・チャンの歌に「丘の上ひなげしの花で〜」(1972年「ひなげしの花」という歌がありましたが、そのひなげしの咲く坂道を登った高台に建っている古びた洋館のアパート。1963年の横浜。アパートから見下ろせば横浜の港が見えます。アパートを切り盛りする松崎家のしつかり者の次女・海(うみ)は毎朝、住人と家族の朝ごはんの支度をします。そして、港が見える庭に降りて、船から見えるように「航海の安全を祈る」という意味の旗を掲揚しています。一

方、毎朝、通学の足代わりを港を航行している父の船に乗って登校する風間俊。海も俊も同じ港南学園(高校)の生徒です。海と俊の家族をめぐると、ミステリアスな過去のできごとと、並行して展開する学園のクラブ活動の拠点である生徒会館「カルチエラタン」の取り壊しをめぐる騒動が軸になっています。坂本九の「上を向いて歩こう」のメロディがノスタルジックに流れます。ガリ版印刷や路面電車、自由なクラブ活動など、半世紀近く前のアナログの時代の恋と友情、家族の絆が描かれています。おなじみジブリの新作アニメ。監督は宮崎

このシネマ

がえいび

大阪の戦跡を歩く

第70歩

海軍地下弾薬庫跡

(吹田市)



跡地は1970年の万博の時に埋められました

万博記念公園南部の一角には戦時中、海軍大阪軍需部の倉庫がありました。海軍の武器、弾薬などが保管され、用地の広さは56万5000㎡(甲子園球場グラウンドの約43倍)ありました。トンネルも5本あり、総延長距離が

1000メートルあったそうです。吹田市は2000年3月、万博公園の東隣りにある市のリサイクル施設に、倉庫跡地を示す銘板を設置しました。「恒久平和への誓いをあらたに、ここに銘板を設置する」と記されています。

撰津
河内和泉
おおさか
三國誌

71
(枚方市)

大陸からの渡来人・王仁伝説
地元住民が守り育てる
日韓交流のシンボル

「難波津に 咲くやこの花冬ごもり 今を春 迎と咲くやこの花」百人一首大会で必ず最初に詠まれるこの歌は、古墳時代前期の4世紀末に朝鮮半島の百濟から日本に渡った王仁博士が詠んだといわれています。王仁博士は「古事記」や「日本書紀」に登場し、日本に漢字と儒学を伝え、皇子に学問を教えた人物であると記されています。枚方市藤阪には「王仁の墓」と伝えられる自然石があり、江戸時代から今日まで地元の人々によって祭られてきました。1731年(享保16年)、京都の儒学者であった並川誠所が、当時「オニ塚」と呼ばれていたこの自然石を「王仁の墓である」と断定。領主に進言し、墓地として整備されるようになりました。この「墓」は明治時代になってからも地元の人々によって祭られ、1938年(昭和13年)には「伝王仁墓」として

百濟門は韓国から来日した宮大工が建造しました



仁墓」として

大阪府の史跡に指定されました。戦後は雑草が生い茂り、大量のゴミ捨て場になるなど散々な状態の時期もありましたが、1985年に地元住民が「王仁塚の環境をまもる会」を結成。ボランティアで清掃をし、韓国の国花である「無窮花」を植えるなどして整備をしてきました。日韓両国の友好団体から寄附金も募り、2006年には朝鮮様式の百濟門も完成しました。今日では、王仁博士が実在した人物かどうか疑われていますが、「伝王仁墓」には韓国から毎年約5000人の修学旅行生が訪れ、日韓交流のシンボルになっています。

いまも心に響く
名詩・名歌・名語録

平和の時には、息子らはその父を葬り
戦いの時には、父たちはその息子を葬る
ヘロドトス

ヘルシャ戦争史を著した古代ギリシャの歴史家・ヘロドトス(前5世紀)の言葉。いまでも、戦争になると若者たちは兵士として戦場に行き、悲嘆のうちに父たちが息子を葬っています。これが戦争の現実です。

「わが人生はすぐに消えてしまう露のようなものかもしれないなあ。思えば栄華をきわめた難波(なにわ)の日々も、まるでいくつもの夢のようであった」という秀吉の辞世の句。「なにわの事も」は、大阪の「難波」と「何もかも」との掛詞とされています。

露と落ち、露と消へにしわが身かな
なにわの事も夢のまた夢

豊臣 秀吉